

一 惣家中之者... 事

一 賣人之事

一 淺井因幡之事

一 所奉行之事

一 代官那奉行迷惑... 事

一 出頭人之事

一 右之条... 高懸... 事

寛文六年四月

京極安智母高政平

右此卷中此披身有... 上聞五月三日... 朝丹後守

通... 父子... 酒井... 御理... 左... 右... 宅... 迎... 招... 事

但道... 病氣... 右... 中... 後... 事

一 頃日... 安智... 母... 方... 辨... 狀... 指... 上... 事

一 丹後... 安智... 相... 續... 之... 後... 對... 父... 安... 智... 母... 之... 事

一 計... 上... 一... 類... 中... 事

一 家中... 諸... 侍... 並... 領... 内... 之... 事

右之条々不届至極不家振子内之陸及 中ノ旨  
此宿免如今被從安智無方也付名上付之願也  
此旨上之丹後守南朝大膳長史迎江守有堂大學院  
此願也願以上

五月三日

右之通院評定不之系山城守作渡之少系安房守  
之系伊勢守村敏長門守渡辺大隅守東山守備守列在  
山城守備守丹後守を之松平備後守荒木十九重  
同旨之退前也

丹後守子丸也願定

二男万吉七歳松平新吉五歳三男幸之助五歳松平相摸守  
四男松助 伊達遠江守七歳女子十九歳二人松平飛代  
但安智無池田之五郎輝政之塔丹後守也松平陸奥守

塔也

丹後守迎江守父子也扶持之之米二千俵宛此之礼  
自之金子中丹後守也之百兩也迎江守也之百兩也金  
之之礼也 西指之金子百兩宛之礼也

丹後守宮陣也也 上付中出園也也

條々

一 万事法度之飯屋之付事

- 一 喧嘩以論之停口之訖若為遠犯之族之双方之誅罰之
- 一 万一令為擔之其咎之重如人事
- 一 竹木一切之伐採之罪之押買糧籍事
- 一 家中之常武具諸道令之任之身之令事
- 一 家僕之非非語代之為主從相對之事
- 右之守之其外載之知狀者也

寛文六年五月十日

上使中

條々

- 一 京極丹後守依重與之在府之領内之南郡大膳

右之吏之領之訖訖之丹後國之津城為清和中之松平  
 若狭守松平之殿之山之行勢守為在東水谷之系  
 九鬼長門守之殿之右之殿之上之殿之若狭守之九  
 之殿之九之殿之行勢守之系長門守之清和之殿之丹  
 後守之系城守之押之上之九之系之九之  
 長門守之相勅之若狭守之行勢守之系殿之殿地之發  
 之事

- 一 家中明為系之殿之系之系之町人百姓之令事
- 一 身之領之親之訖又系新寄附之令之令之令事
- 一 丹後守之領之令之令之令地之令之令之令事

一 給人城下町掃地 上使并山内府之御之從至名て為

三千日切事

附給人之障候より在りて中ノ事ハ穿鑿之上勿知有て居りて近  
事於お望ハ先々之旨無遠礼宿と切事一其旨山内府中より院  
又て事々々々

一 傾地ノ後之兩支所ノ名東ノ金丸森若木ノ長谷川ノ之等

河合意不之傳又之引渡之改附於人ノ用之左系免長  
門古家来て之取副子

一 種傍之儀藏より是如之借付之費於給り幾之收納事

附手前未進之并借子

一 未進方より取仕之男女之儀主從相對此方より

指

卷一

但至平年ハ之為借代事

附借代事ハ一並男女於之無給ハ借代勿論之事

一 借物之之為禮又切事

右之條之儀 仰執達此件

寛文六年五月十日

内膳正

但馬守

大和守

美濃守

本後守

雅樂頭

上使申

以時に上侍と青山大膳元山自付玉門丹波守能勢  
治大馬の西尾者急病あり

一丹波守家老を和歌中に諸侍相續して中極高國

と判無し〜〜城と渡り侍送り切なき遠い世人

乃批判の預想〜〜鬼角玉中の士卒を極く振寄

決断せん〜則旦成〜解をれい何も不迷馳集

と面〜と息を述べ〜先ん御殿無〜同心無〜面

書付共松平主殿元少御前等も〜中より又云た道

謹る言上は御物者今度丹波守領知被 百上

家老大膳御下仕是候と城中一家中に候御意にお

治は〜丹波守墨付ふ余は〜城とお渡りする所のみ

面〜あり〜形度ゆ〜御物者有候〜丹波守

仕御意おと家老大進と御下候も無所在御仕御も

任我意仕付る石仕各御御物不家老大其より親

進世者〜御御付有〜相候御先面〜御對

云不様お〜御御付有〜御御付有〜御御付有

以後も御付中上〜御御付有〜御御付有〜御御付有

同心不仕候也候御

乙酉十月

中村六之助

川勝七右衛門  
柴田八右衛門  
吉田四之助

右に連判の舟同心者扱多し此法にても急中山加  
判不結

松平主殿頭様

山家守中

小右信康守様

山家守中

又山誓詞範城一任に十合し

二千石 落合主税助  
千石 沢 圖書  
千三百石 伊木右衛門  
千五百石 中江民部  
七百石 破夫右衛門  
けり人者家老也

至程西越前  
同二男  
同二男 二百石  
七女六子世襲  
民部惣取  
外左門内男百石

落合主税助  
同 友之丞  
沢 守右衛門  
同 庄之助  
伊木又右衛門  
中江源三郎  
破谷友之丞

井上主税  
并河惣三郎  
分下北之助  
幸友勘左  
高木右之助  
田中善兵衛  
川上徳三郎  
高田善兵衛  
大日向守  
高田理三郎  
岩室源三郎  
戸田利左  
高木源兵衛  
田中安右衛門  
津田之助  
津田勘三郎  
乙井善助

石ノ外ニ

石ノ外ニ

同三男

同三四男

七百石

窪田源右衛門

五百石

徳右衛門

三百石

子波権左衛門

二百五十石

小幡左衛門

三百石

西門又右衛門

二百五十石

西原左衛門

二百石

子波次左衛門

二百五十石

伊左衛門

二百五十石

井上右衛門

二百石

可児左衛門

二百石

少将左衛門

百石

小幡左衛門

三百石

白石十左衛門

二百石

河合源左衛門

百石

板橋右衛門

百石

田中左衛門

百石

三陽清左衛門

百石

子波左衛門

二百石

日中郡三左衛門

二百石

北原源左衛門

二百石

内保源左衛門

百五十石

大野左衛門

三百石

川路長左衛門

百石

小幡左衛門

三百石

三陽基左衛門

二百石

三田村源左衛門

二百石

積 九左衛門

百石

田中左衛門

百五十石

武光源左衛門

百五十石

子波左衛門

二百石

長田三左衛門

二百石

長原七左衛門

百石

多尾源左衛門

二百石

長原左衛門

百石

糸村左衛門

百石

大橋左衛門

百石

福岡傳書

二百石

平野長清

廿石

西門待左衛門

七十石

小村伊左衛門

二百石

高田金右衛門

五十石

小村源七郎

無石

大井長清

以上中野人の諸藩に在る田心ノ輩あり

以知子野城も同心無し又上使中に以書状も亦中上程

預る者數多きに此大退言て其記て又此加國課宗武

江戸諸系大坂に在城をて侍者都合部百に檢一人を

給知中の丹後守家老方々窪田源吉の二田村徳吉

右使福智山中城に以上之

今度丹後守不調法仕の所改易に 俸有は持者

上使青山大膳亮殿に家老方々中之給て之津城地を

以清取者相違ひ以給て由乃及此の物を以唯今丹後守

墨付不負城の城地預知の間墨付等との城地取渡

中公取切之に雖有肯 上意中使聊云此方

上使に城地取渡中の言已後諸合主税の取付本

七神右衛門江守書中江民勤御矣助方為は五人

家老方切腹して由中上公以上

一 今度丹後守不調の事家老方城地云是候

上使に不調の由云方々口付する暇十六日之晩景直也



到來その云

上使より此江口迄以前家中并所在之近邊初之住の  
極より急度下付也 上使於此迄之城に後より友  
中より此迄之江口迄に速に渡して之を以て今更  
に仕合我亦之酒法を家中に改宰渡と云候事此旨  
侍申上之申中申上也

五月七日

京丹後守高國判

落合主税の由より  
沢 急事との

一 合上陸上  
一 伊予七郎右衛門  
一 中江民部  
一 破矣助右衛門  
右に書書至東之舟米村迄は馬河合迄は馬の由使主殿  
改後伊勢守殿又申上

去十四日之窪田津右衛門之田村徳九郎の由使より申上  
丹後守墨付より此の城地お渡中候物者大士道之  
法め河内其間諸子増増申上法お申上之由切腹  
之仕し方申上候事 上使より清江口より此迄は  
より及是後申上城に渡下申上之由左様申上

上等抽者其切極ふり少く在り此旨為り上  
等なる如新之程以上

五月十七日 右五人 家老 面々

一 上使 堀内 辰平 之 後 丹 後 守 金 堀 出 勘 定 元 引 後  
以 完

一 金小判 部 方 八 千 七 百 七 拾 五 兩

一 大判 五 拾 枚 金一石の三拾五兩

一 銀小判 部 方 五 兩 切 銀 五 方 四 切 銀 五 兩 大 小 二 百

一 戻 吹 百 兩 部 銀 八 拾 八 貫 同 九兩八是、通印も銀入

一 金小判 千 兩 部 九 兩 部 方 銀 七 拾 七 貫 五 百 六 拾 四 兩 余

けいし金銀の息女達之分り

一 金小判 千 兩 部 五 拾 五 貫 三 百 七 拾 六 貫 三 百 一 兩 下

一 銀 百 兩 部 八 貫 三 百 九 兩

金分の部方銀七十一兩二分

右 之 己 年 の 全 額 仍 之 之 け 家 中 用 銀 一 千 一 百 一 貫  
五 十 兩 有 り

一 銀 部 百 三 拾 五 貫 四 百 兩 是の家軍用銀とて金  
分あり

一 銀 九 拾 六 貫 百 九 十 兩 是の家中等信銀と名付て金  
分あり

右 家 中 用 銀 一 千 一 百 一 貫 五 十 兩 有 り 分 之 知 行 高 二 何 程 割 け 毎 年  
物 成 之 内 之 押 取 取 之 金 銀 多 少 右 之 如 也 一 千 一 百 一 貫 五 十 兩

一 従 公儀丹後守父子并家中へ向て一紙下金銀完  
 一 全小判五百両 丹後守に  
 一 同 二百両 近江守に  
 一 同 二百両 又人へ取立に  
 一 知行取百石以上へ向て高百石有拾両宛紙  
 一 一貫是古或人以内落合飛へ懸同或へ懸付本又

右儀の三人に拾両は紙中取銭面への寺人へ付す  
 宛紙下  
 一 一紙五貫四百両 (全三十九貫五百両右に拾金之中小姓  
 十一人)  
 一 一紙四拾八貫目 (全二百八貫右に切米取百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙三貫二百拾両 (全二百三十八貫右に掃除坊主細子者上  
 二十九人 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙七拾四貫五百両 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙六貫七百六十両 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙八貫七百六十両 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙三拾貫目 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)

一 一紙五貫四百両 (全三十九貫五百両右に拾金之中小姓  
 十一人)  
 一 一紙四拾八貫目 (全二百八貫右に切米取百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙三貫二百拾両 (全二百三十八貫右に掃除坊主細子者上  
 二十九人 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙七拾四貫五百両 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙六貫七百六十両 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙八貫七百六十両 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)  
 一 一紙三拾貫目 (全三百三十四貫右に拾兩宛は是に長柄百平人  
 一紙下寺人へ付す)

一 浪四貫四百四拾目（全三ノ七拾貫及是ノ後金中ノ七十一人ノ  
計ノ一人ニ付キアリ）

右ノ通シテ一ノ四ノ千或百七拾貫及之（外知ノ百石  
以上ノ數ナ知）

寛文六年七月三日日暮日去依國洪水

高又子石余損田家數八百三十軒流船七十二艘破損  
溺死ノ者五ノ中ノ人井川除堤五百二十ヶ所大破山内  
修理危居ノ者依ノ畑也地形より一丈余り水上リ  
同日夕方十時頃洪水あり

同日三日日豊後國府内強風

松平村監候地強風烈ニ家數五百三十軒吹瓦同十  
六日尾州甚多烈風屋内雨多ト大風雨又八月朔日

小曾門筋水増損毛指五万二千二百五十石平内九千  
三百六十石濃州領六万七千八百七十石小荒ノ程  
成ノ四方百九拾百余堤破損右ノ程ノ十八里餘之  
流家計百拾五軒橋都合廿八ヶ所流失中ノ材木大  
小五万本ノ流失溺死六人馬四疋死其ノ外畧シ  
同年七月廿一日日暮日完

或千俵 此ノ爲居子寄大書取

千俵 大目付支取書取

七百俵 支取書取此勘定在り

五百俵 新田邊取此帳子支取此旗在り此程